

評議員会議事録

【評議員会議事録】

日時：2003年7月5日(土) 11時00分～14時35分

場所：国立天文台（三鷹）南館一階大会議室

出席者：井上，太田，海部，小山，須藤，千田，高橋，舞原，牧島，家，石黒，木下，高津，小杉，佐藤（勝），谷口，長谷川，松田，渡部 以上19名

欠席者：岡村，加藤，柴田，高原，福井，吉井，池内，佐藤（修），中村，野本，林 以上11名

有効委任状提出者：岡村，柴田，高原，池内，佐藤（修），林 以上6名

他に理事会から，祖父江，杉山，郷田，関井理事，また東條事務長が参加した。

議事に先立ち，議長及び署名人を選出した。

議長：石黒正人

署名人：舞原俊憲，千田篤史

報 告

1. 前回議事録の確認（資料1）

杉山理事より前回(2003年3月25日)の評議員会議事録が報告され，一部字句修正の上承認された。

2. 2003年秋季年会について

粟木理事の代理として，杉山理事より準備が順調であるとの報告があった。松山コンベンションビューローから50万円の補助金がでることになった。

3. 第19期日本学術会議天文学研究連絡委員会委員候補者及び第15期評議員候補者選挙結果について（資料2）

選挙結果が杉山理事より報告された。天文学研究連絡委員会委員候補者に関しては，第18期天文学研究連絡委員会池内委員長に選挙結果を報告済みである。選挙に関して，投票率を上げる努力が必要との指摘があった。関連して，学術会議の今後の改革案について海部評議員から報告があった。学術会議はこれまでと異なったトップダウン的な，総合科学技術会議をサポートする機関に変わろうとしているとのこと。これについては秋の年会で特別セッションが行われる予定。続いて意見交換が行われた。

4. 100周年記念出版事業，第1回編集委員会の報告と編集委員3名の増員について(資料3)

6月14日に行われた表記委員会について，郷田理事から報告があった。学部レベルも意識した院生，研究者向けの日本語の教科書，全15巻程度を考えている。日本天文学会創立100周年に合わせて2008年3月の総会までに全巻の完成を必須とする。15巻の構成や内容のたたき台を考えた。また，各巻を数人が責任編集する体制をとることとし，すべての巻の編集者に編集委員が少なくとも一人は入ることとした。今後は，各巻の編集者を決め，各巻の内容を吟味し，第1次案を作成。その後，広く会員の意見を聞く予定とのこと。評議員より，編集委員の増員の具体的な提案が一件あった。すでに，6月28日に行われた理事会にて祖父江義明（東京大学），二間瀬敏史（東北大学），水本好彦（国立天文台）の三氏が新たな編集委員として認められたとの報告が杉山理事よりあった。ここで提案のあった，さらなる増員に関しては，次回の理事会で検討する。

5. 正会員（学生）への旅費補助について（補足資料）

高橋評議員から若手の会の調査結果について報告があった。大多数の研究室では，実費の10%から20%程度をカバーする補助しかでていない，というのが現状であり，学会から

の旅費補助は今後も必要であるとのこと。

6. その他

(ア) 国立大学法人法に付帯決議を

佐藤（勝）評議員より、国立大学法人法の参議院での採決に向け、参議院議員を対象とする陳情を行っていることについて報告があった。学術研究（特に基盤的研究）に関しては、短期的視点に立った評価に基づく配分をしない、大学附置の共同利用研究所センター、国立の研究所は、大学を超えた共同研究の拠点として中核的役割を果たしているので研究の組織的基盤を財政的に確保すること、という付帯決議をつけてもらうことを目指しているとのこと。天文学、さらには理学部などの基礎科学を支える部分を大学に残していくためにはどうしたらよいかという点について、意見交換があった（補足：参議院文教科学委員会での法案の採決にあたって、異例ともいえる23項目にわたる付帯決議が付された。その14項を次にあげておく。十四. 国立大学附置研究所については、大学の基本的組織の一つであり、学術研究の中核的拠点としての役割を果たしていることにかんがみ、短期的な評価を厳に戒めるとともに、財政支出の充実に努めること。また、各研究組織の設置・改廃や全国共同利用化を検討するに当たっては、各分野の特性や研究手法の違いを十分尊重し、慎重に対応すること）。

(イ) 催しの報告

物理学会科学セミナー「宇宙を見る新しい目」が8月22日、23日に東京大学で行われる。大学と科学公開シンポジウム、「宇宙の誕生と未来」が1月31日、2月1日に講演会、朝日マリオンで行われる。これに関しては、天文学会に後援依頼が来る予定である。

議 題

1. 2004年度事業計画案（資料4）

杉山理事より資料に基づいて、事業計画案が説明され、承認された。PASJの増刊について、具体的にどのような形での増刊を考えているのか、例えば号数を増やすのか、一つの号を二つにわけるとか、質問があった。蜂巢PASJ編集委員長より、将来の月刊化を視野に入れての増刊であり、実質的に8号を意味する、また増刊は特集を予定しているとの説明が、書面にて行われた。

2. 2004年度収支予算案（資料5）

関井理事より資料に基づき、収支予算案が説明された。学術交流費特別会計に関して、来年度支出（予算）額に相当する140万円（2002年度収入より算定）を一般会計から借り入れるという提案に対して、意見交換が行われた。一般会計から移算をした方がすっきりしているとの提案があり、これは今回限りとすること、今後賛助会員を増やす努力を続けること、各研究機関でも学生に対する旅費補助の努力を行うこと、という条件の下、一般会計から借り入れるのではなく、移算するように修正された。修正された収支予算案が総会の議案として提案される。関連して、学術交流費の減少傾向や、会員（学生）に対する旅費補助のあり方に関して、意見交換がおこなわれた。賛助会員になるメリットを目に見える形にするために、天文学会ホームページに賛助会員リストを載せたらどうかという提案や、旅費補助に関して、各機関からのサポートの努力は最大限行われているのかなどの疑問が出された。

3. 秋季通常総会議題（資料6）

杉山理事より、秋季通常総会議題として、2004年度事業計画案、2004年度収支予算案、新評議員選出、が提案され、承認された。

4. 総合科学技術会議に対する声明文について

佐藤（勝）評議員より、草案はほぼできあがっているが、最後の詰めの部分で物理学会の対応が遅れているとの説明があり、意見交換が行われた。法人化をにらんで早急な対応

が望まれるので、天文学会理事長からの要請を行うべきであるとの意見がだされ、理事長が対応することとなった。

5. 要望書：天文・宇宙に関する社会教育施設の充実のために（資料7）

春の年会での理事会、評議員会で再検討をすることとなっていた声明文に関して、提案者の黒田氏、さらに理事会より依頼された若松副理事長、佐藤理事によって修正された案が6月28日の理事会に提出された。理事会で、さらに一部修正を施した要望書案が、資料7として提出された。一部添削を必要とするとの意見が複数の評議員から出され、評議員からの修正意見を加えて、理事長、副理事長が最終的にまとめ、関連機関に送付することになった。さらに、この要望書の発表の形態として、国立天文台広報普及室と連携し、理事長出席の下に記者会見をすることとなった。その際に、追加資料として閉館したプラネタリウムリストなどを用意すること、また、天文学会としても、講師派遣や年会における天文教育フォーラム、ジュニアセッションなどを通じて、この問題にこれまでも積極的に取り組んできたことを強調すべきであるなどの意見が出された。

6. 名誉会員について

名誉会員の制度の活用について、杉山理事が前回の評議員会での意見交換を受けて、理事会では当面は見送る、という結論に達したことが報告され、了承された。

7. その他

(ア) 次回評議員会を9月26日(金)、秋季年会会場において昼休み中に開催することとした。

2003年7月17日

議長 石黒正人 印

署名人 舞原俊憲 印

署名人 千田篤史 印